

埼玉アートシアター通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2013.11-12

NO. 48



Tanztheater Wuppertal Pina Bausch KONTAKTHOF

ピナ・バウシュ ヴツパタール舞踊団『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』

【ザ・ファクトリー4】さいたまネクスト・シアター／ピアノ・エトワール・シリーズ 大崎結真
埼玉会館ニューイヤー・コンサート2014／鈴木雅明

2013.11-12

NO. **48**

03	DANCE	ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団 『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』
06	DANCE	PINA ON SCREEN —映像作品に刻まれたピナの世界—
07	MOURNING	追悼・諸井 誠氏
08	PLAY	【ザ・ファクトリー4】 さいたまネクスト・シアター 『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章 —詩・評論・小説・戯曲より—』
09	PLAY	『わたしを離さないで』
10	MUSIC	ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.23 大崎結真インタビュー
12	MUSIC	ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ / Vol.2 北村朋幹
13	REPORT	Talk Session マレイ・ペライア×青澤隆明 (音楽評論家)
14	MUSIC	埼玉会館ニューイヤー・コンサート2014 新日本フィルハーモニー交響楽団 小泉和裕 (指揮) 中嶋彰子 (ソプラノ) 中井美穂 (司会)
16	REPORT	ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団 クリニック
17	COLUMN	アーティストの原点13 鈴木雅明
18	REVIEW	2013.9-10 彩の国のアーツ
20		イベント・カレンダー / チケットインフォメーション 彩の国シネマスタジオ
23		THEATER BRIDGE



COVER
 ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団『KONTAKTHOF—コンタクトホーフ』
 Photo © Laszlo Szito

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.11-12 No.48
 編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘、鶴田大志 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
 Published on 15.November 2013 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
 ※掲載情報は、2013年10月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団
KONTAKTHOF
 —コンタクトホーフ

ピナが問い、ダンサーがこたえることを繰り返しながら作品は生み出されてきた。求め合いすれ違う身体と身体が、観る者それぞれの遠い記憶を呼び覚ます。

Photo © Oliver Look





『コンタクトホーフ』 Photo © Oliver Look

ピナ・バウシュ (1940 ~ 2009)
Photo © Wilfried Krüger

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団
『KONTAKTHOF —コンタクトホーフ』

日 時：2014年3月20日(木) 開演19:00、21日(金・祝) 開演15:00、
22日(土) 開演15:00、23日(日) 開演14:00
(上演時間/約2時間50分・休憩含む)

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席への案内ができない場合がございます。予めご了承ください。

会 場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

演出・振付：ピナ・バウシュ

美術・衣裳：ロルフ・ホルツィク

出 演：ピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団

『コンタクトホーフ』
Photo © Oliver Look (左) Laszlo Szito (右)

Tanztheater Wuppertal
Pina Bausch
KONTAKTHOF

チケット(税込)
一 般：S席10,000円/A席7,000円/B席5,000円
学 生：S席7,000円/A席5,000円/B席3,000円
メンバーズ：S席9,000円/A席6,300円/B席4,500円
※A席(サイドバルコニー・2階席の一部)・B席は舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。

発 売 日：一般12月1日(日) メンバーズ11月24日(日)

ピナ・バウシュと『コンタクトホーフ』

文◎貫 成人(哲学・舞踊批評)

「悪魔に姿を白鳥に変えられた少女に恋した王子は、悪魔と闘って敗れる」「知らない内に父を殺し、母を妻とした」など、たいいての舞台作品にはストーリーがあり、それによってダンサーや役者の所作やシーンは意味をもつ。

バウシュの作品にストーリーはない。だが、意味は過剰なまでにある。一体、これはどういうことなのだろう。

秘密は作品制作法にある。1作品あたり3ヶ月ほどの制作期間のうち、はじめの1ヶ月、バウシュはダンサー達に沢山の質問をする。「愛を強制されたらどうするか」「なんにも考えられないときに考えるか」

など、捻りのきいた質問にダンサーはダンスや言葉、パフォーマンスなどでこたえようとする。だが、生半可な答えでピナは満足しない。OKができるまでダンサーはあらゆる可能性を探り、記憶を掘り返し、血反吐をはく努力をする。採用されるのは、ダンサーの奥底から探し出された答えだけだ。1作品の参加ダンサーは20名ほど、バウシュは100ほどの質問を出すので、2000ものアイデアがその都度、集まる。そこからバウシュは適切なものを選び、組み合わせ、並べ替え、2ヶ月ほどかけてようやく作品は生まれる。

この制作法のため作品は必然的に短い

シーンの連続となる。シーンの並びに脈絡はなく、同時に複数シーンが進行することもある。表現も多様だ。ダンサー同士が本名を呼び合いながら絡むコント、現実を切り取った所作、歌や楽器演奏、観客を襲うセリフや叫び、映像などが一見無秩序に続く。

美しいポーズや動きのキレ、スピード、超絶技巧を見せるダンスは登場しない。不格好でギクシャクし、何気なく見える動きだが、ダンサー自身の生き様を刻み込むような動きは観客の奥底に響く。動きと同期した音楽が何気ない所作をダンスに変え、途方もなく残酷なシーンに甘美な曲がか

かって残酷さを増幅する、など、音楽の使い方も工夫されている。

『コンタクトホーフ』の舞台は、漆喰の壁で囲まれた古ぼけた広間だ。すでにさまざま過去や歴史、記憶が積み重なった、その空間に、日常や非日常、挑発や誘惑、不器用な性、壮絶な孤独、甘い幼時の記憶、自然、などの断片が、ときにコミカルに、ときにシリアスに登場する。「コンタクト」は「接触」なのだから、男女がさわわりあってばかりいるのかと思うと、そんなこともない。男女はおたがいに求め合ってもすれ違い、嫌がらせが誘惑であり、愛撫は虐めになる。教師と生徒、過去の自分とのあいだにも触れあいはある。捻りのきいた「接触」がかえって大きな効果を生み、欲望とそれに伴う身体が増殖して一気に空間を満たすさまは壮観だ。

こうしたシーンは、観客の記憶や感情、

感覚に働きかける。『バンドネオン』という作品には、楽しげな曲、舞台前面に並んだ人びとの背後で、女性ダンサーが床を転がりながら、この世とも思えぬ叫び声を続けるシーンがあった。それを見たある女性は、いくら助けを求めてもだれも手を差し伸べてくれないそのシーンが、まるで彼女自身のことを描いているようで鳥肌が立ったと語った。バウシュの作品には、どこか必ず、観客自身の忘れ去っていた過去に働きかける触手が仕掛けられている。

どのシーンでもダンサーたちは全身全霊をかけて我と我が身を観客に叩きつけてくる。そこに生まれるのは、だれもが生まれ、生き続けるとき、否応なく巻き込まれる現実だ。すべての観客がおなじように作品を見ることはありえず、観客ごとになにを感じるかは異なる。『コンタクトホーフ』はこうして、上演ごとに無限の意味を生み

出す。上演中のあらゆる瞬間、あらゆる動きがたったひとつの筋をなぞるタイプの演劇の退屈さと対極にあるのが、バウシュ作品なのである。

映画『夢の教室』に見られる通り14歳以上の若者、また、65歳以上の市民がダンサーとして参加するバージョンも『コンタクトホーフ』にはある。この作品が、舞踊団レパートリーの中でもとりわけ重要で、親しみ深いものであることの証だ。

この作品は『カフェ・ミュラー』『春の祭典』とともに、1986年、舞踊団初来日時に上演された。ヴッパタール舞踊団は原則、同じ作品を同じ国で2回以上、上演することはない。『カフェ・ミュラー』『春の祭典』はすでに2006年、日本再演された。今回の『コンタクトホーフ』再演とともに、舞踊団の公演ラッシュ第2ラウンドを期待するファンは多い。舞踊団が続くかぎり。

PINA ON SCREEN

映像作品に刻まれたピナの世界

作品解説◎佐藤友紀（ジャーナリスト）



『嘆きの皇太后』（1989年/ドイツ/106分）

監督・脚本・振付：ピナ・バウシュ

ピナ自身が脚本を書き、振付・監督を手がけたファンタジックな映画。ヴッパタール舞踊団の本拠地ヴッパタール市街や舞踊団の稽古場があるマクドナルドの上階、そして市の周辺の森や野原など、思い思いの格好のダンサーたちが劇場を飛び出して風景と溶け込んでいるのが新鮮だ。ダンサーたちは、例えばキルトを着たバンクロッカーが『アーネン』からだったり、いずれもピナの作品を代表する衣裳での登場。



写真協力：公益財団法人川喜多記念映画文化財団



『ピナ・バウシュ 夢の教室』（2010年/ドイツ/89分）

監督：アン・リンセル
出演：ピナ・バウシュ、ベネディクト・ヒリエ、ジョセフィン＝アン・エンディコット

「65歳以上の男女によるコンタクトホフ」を成功させたピナが、「今度は若い子たちでやってみよう」と企画した作品に関わった10代の若者たち。移民の子がいたり、各々、家庭の事情を抱えているし、ダンスなど全く興味が無い子もいて、マイナスのスタートから一つにまとまってくる姿がいい。かつて『コンタクトホフ』の中心で踊っていたジョーとベネディクトの指導も真剣で、作品に対する誇りを感じる。



©TAG/TRAUM 2010



『PINA/ピナ・バウシュ 踊り続けるいのち』（2011年/ドイツ、フランス、イギリス/104分）

監督・脚本：ヴィム・ヴェンダース
出演：ピナ・バウシュ、ヴッパタール舞踊団
DVDコレクターズ・エディション（2枚組）¥5,985（税込）
Blu-rayコレクターズ・エディション ¥6,825（税込）
発売元：ギャガ/販売元：ポニーキャニオン

20年来、ピナと「一緒に何かやろう」と約束していたヴィム・ヴェンダース監督が、ピナの急逝のショックを乗り越え、3Dで撮影したドキュメンタリー。ヴッパタール市内の路上や電車、工場、鉱山の跡地等でダンサーたちが踊るだけでなく、各々ピナとの関わり、思い出を語る。ヴェンダースがかつて撮影した『都会のアリス』のロケ地が当時と変わらぬ姿で登場するなど、ヴェンダースファンにとっても嬉しい一作。



© 2010 NEUE ROAD MOVIES GMBH, EUROWIDE FILM PRODUCTION



『そして船は行く』（1983年/イタリア、フランス/127分）

監督・原案・脚本：フェデリコ・フェリーニ
出演：フレディー・ジョーンズ、バーバラ・ジェフォード ほか

ヴェルディのオペラ『運命の力』が流れる中、偉大な歌手エドゥエアの遺骨を故郷の海に流すために、豪華客船が出航する。時代背景は1914年。エドゥエアのモデルは大女優エレオノーラ・ドゥーゼらしいという、フェデリコ・フェリーニ監督作。ピナは盲目の皇女を演じているが、『カフェ・ミュラー』に感激したフェリーニが、「演技なんかできないわ」と渋るピナに、「あの舞台と同じでいいから」と懇願したとか。



写真協力：公益財団法人川喜多記念映画文化財団



『トーク・トゥー・ハー』（2002年/スペイン/113分）

監督・脚本：ペドロ・アルモドバル
出演：レオノーラ・ワトリング、ハビエル・カマラ ほか

ピナの『カフェ・ミュラー』と『炎のマズルカ』が、物語の中でも重要な役割を果たす、スペインのペドロ・アルモドバル監督作。事故で昏睡状態となった女性ダンサーに対する男性看護師の特殊な愛のあり様に賛否両論だった。なお『炎のマズルカ』の舞台装置が『緑の大地』なのは、「映画の撮影中にパリで公演していたのが『緑の大地』だったんだよ(笑)」とアルモドバル。かえって貴重な映像となった。

Blu-ray ¥2,100（税込）
発売元：ギャガ/販売元：松竹
© EL DESEO, S.A. 2002

『Un jour Pina a demandé ある日ピナが尋ねました』（1983年/ベルギー、フランス/57分）

振付：ピナ・バウシュ 監督：シャンタル・アッカーマン
出演：ピナ・バウシュ、ヴッパタール舞踊団

アヴィニョンの石切り場跡に植えられた1万本のピンクのカーネーション！『ネルケン（カーネーション）』は劇場で観ても感動するが、シャンタル・アッカーマン監督が撮った本作ではまた別の輝きを放っている。欧州ツアー中のヴッパタール舞踊団に同行したアッカーマンは、本番だけでなくリハーサル中のピナたちの貴重な姿をフィルムに収めた。特に一つずつの質問から作品を創り上げる手法は秀逸だ。

★『ある日ピナが尋ねました』の日本国内でのDVD等の販売はありませんのでご了承ください。それ以外の映像は彩の国さいたま芸術劇場内・舞台芸術資料室にて視聴できます。

諸井 誠を悼む——その三つの顔

文◎三浦雅士（評論家）

諸井誠の訃報に接し茫然としている。人はみな逝くものと思はしても衝撃はそのつど激しい。誰もが足早に去ってゆくような荒涼とした思いに襲われる。

諸井誠は作曲家である。父は諸井三郎。むろんこれもまた高名な作曲家。諸井三郎は1932年にベルリンに留学しているが、1930年生まれで当時2歳だった諸井さんも一緒に渡欧したと聞いている。滞在したのは2年余りだが、ヒトラーユーゲントふうの子供服を着た写真があると仰っていた。諸井三郎は学生時代に河上徹太郎らと音楽グループ「スルヤ」を結成し、その縁で中原中也の「朝の歌」を作曲したことも知られている。諸井家は秩父セメント（現・太平洋セメント）の創業者一族。要するに、作曲家・諸井誠は知的にも経済的にもきわめて恵まれた環境に育ったのである。

諸井誠は青年期に黛敏郎らと二十世紀音楽研究所を立ち上げるなど作曲家として華々しい活動をしている。1950年代には十二音音楽の旗手として——たとえば《ヴァイオリンとオーケストラのための協奏組曲》——、60年代には伝統楽



諸井 誠氏（1930～2013）

彩の国ベートーヴェン・シリーズ
諸井誠&仲道郁代 レクチャー・コンサート最終回
(2006年3月)

Photo ©加藤英弘



器を用いた現代作曲家として——たとえば《竹籟五章》——、日本の音楽界の中心に位置していたと言っている。その作品はいまも耳にする機会が少ない。だが、80年代以降は、作曲家から評論家に転じた印象が否定しがたく強い。しかも、個人的な感想を率直に言ってしまう、諸井誠が水を得た魚のように生き生きとしていたのは、90年代に入って、彩の国さいたま芸術劇場の初代館長に就任して以降だった。諸井誠のこの三段階の変容について、彼自身の考えを遠慮せずにもう少し突っ込んで聞いておくべきだったと思う。

芸術劇場の館長に就任して以降の諸井さんはじつに活動的だった。キリアンを舞踊部門の芸術監督に任命し、ピナ・バウシュを定期的に招聘し、さらに野村万之丞を演劇部門の芸術監督に起用し、舞台芸術の国際的な潮流にじつに敏感に、また的確に対応していた。それにはほとんど強引とも言えるべき指導力が与かって力があつた。たとえば私の経験でも、直前に連絡がきて、大使館での記者会見などに関係者として強引に出席させ

られたりしている。だが、これもまた率直な感想を言えば、諸井さんの情熱は音楽よりもむしろ舞踊の領域に移ったような印象が拭いがたくあつたのである。なぜだったのか。

諸井さんはきわめて個性の強い人だった。たとえば、鋭い発言を要所々々でするのだが、人を傷つけるかもしれない寸前のところで止めるのである。本質を衝くようなユーモアで止める。公演初日のパーティの挨拶などでも、ここに事務局が用意した原稿があるのですが、こんなものはどうでもいい、といった調子で、思うところ、信ずるところを滔々と述べてしまう。人をはらはらさせる。まるでやんちゃ坊主だが、この流儀が、少なくとも私には、先に述べた三段階の変容と密接にかかわっているように思えてならなかった。諸井誠はある段階からなぜか現代音楽に対して異様なほどに強い羞恥を覚えるようになったのではないか。その羞恥が一種の攻撃に転じたのではないか。私にはそう見えたのである。

聞いておくべきことが山ほどあつたと、唇を噛みしめる思いである。

【ザ・ファクトリー4】上演決定!

さいたまネクスト・シアター

『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章—詩・評論・小説・戯曲より—』

2009年の結成以来、着々と歩を進めるさいたまネクスト・シアターの次の挑戦が明らかとなった。

まずは、既存のホールにとらわれず、劇場のあらゆる場所を「表現の場」とする【ザ・ファクトリー】第4弾だ。団員たちは、本公演と並行して、“エチュード”と呼ばれる習作に励んでおり、2012年11月には、エチュード課題『テネシー・ウィリアムズ—幕劇集—』から秀作を集め、【ザ・

ファクトリー2』として上演した。そして今回、今年4月から取り組んできたエチュード課題『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章—詩・評論・小説・戯曲より—』を、シリーズ第4弾として発表することが決定した。

1921年にドイツ・ハンブルクに生まれたヴォルフガング・ボルヒェルトは、19歳の時に劇団に入団するが、まもなく徴兵され東部戦線へと送られる。帰還後、戦時中に患った数々の病のため病床生活を余儀なくされたが、26歳の短い生涯

遂げるまでのわずか2年の間に数々の作品を発表する。今回のエチュード課題は、1967年にボルヒェルトの作品群をもとに蜷川自らが台本を構成、当時所属していた劇団「青俳」の稽古場で発表したものだ。描かれるのは、戦争で負った深く暗い傷を抱えながら生きる復員兵の姿。46年ぶりに現代の若者によって蘇る今回の上演に期待が高まる。

そして、2014年2月には、第5回目となる本公演が予定されている。蜷川は、ネクストの団員を始めとする若手俳優たちと接しながら、現代の若者について、また彼らの置かれている世界の状況を見極め、時代を象徴する舞台を創ってきた。今年11月には、さいたまネクスト・シアターの第4期生オーディションも開催される。オーディション、ファクトリーを通して、今の時代を蜷川はどう切り取るのか。これまでの本公演では、どれも等身大の人物ではなく、自分たちの枠を超えた大きな世界と格闘せざるを得ない戯曲が選ばれてきている。まずはその答えとなる戯曲の発表を心待ちにしよう。



【ザ・ファクトリー2】より『ロング・グッドバイ』(上)【火刑】(右)
Photo ©宮川舞子



公演概要

【ザ・ファクトリー4】
さいたまネクスト・シアター
『ヴォルフガング・ボルヒェルトの作品からの九章—詩・評論・小説・戯曲より—』

日時：11月22日(金)～25日(月)

11月	22	23	24	25
	金	土	日	月
14:00			★	
19:00	★	★	★	★

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大稽古場
原作：ヴォルフガング・ボルヒェルト
訳：小松太郎
構成・演出：蜷川幸雄
出演：さいたまネクスト・シアター

チケット(税込) 好評発売中
一般・メンバーズ：全席自由1,500円
※本公演は特設会場での公演のため、座席の仕様が通常と異なるほか、座席数に限りがございます。
※本誌発行の時点で予定枚数終了の場合がございますのでご了承ください。当日券の有無については、公演当日の午前10時以降、SAFチケットセンター(0570-064-939)までお問合せください。

2014年2月、さいたまネクスト・シアター第5回公演決定!
※詳細は決定次第、財団ホームページ等で発表いたします。

『わたしを離さないで』

英国最高の文学賞(ブッカー賞)受賞作家カズオ・イシグロの傑作を、倉持裕脚本、蜷川幸雄演出で舞台化!

Ryosuke Miura



三浦涼介

Mikako Tabe



多部未華子

Fumino



Kimura

木村文乃

2012年、蜷川幸雄は村上春樹の長篇小説『海辺のカフカ』を舞台化した。熱狂的な原作ファンも納得の舞台を創り上げた蜷川が次に挑むのは、カズオ・イシグロの傑作小説『わたしを離さないで』だ。儂くも輝かしい青春を、SF的世界観の中で静かな語り口で描いた本作は、瞬間に世界的ベストセラーに。2010年にはキャリア・マリガン、アンドリュー・ガーフィールド、キーラ・ナイトレイといった今をときめく若手俳優の出演で映画化され、日本でも話題となったことは記憶に新しい。

作品の舞台は、自然に囲まれた「ヘルシャム」と呼ばれる寄宿学校。外界から完全に隔離されたこの学校で、少年少女たちは徹底した管理のもと、“特別”な存在と言いつつもながら暮らしている。小さい頃からここで一緒に暮らす3人の男女の間には、次第に友情や恋が芽生え始める。そこに孤独、憧れ、不安、嫉妬といった感情が複雑に絡み合い、3人の関係に微妙な変化が訪れる。やがて彼らは「ヘルシャム」の驚くべき“秘密”、そして、彼らに課された“特別”の残酷な真実を知ることになる。

3人を演じるのは、日本演劇界期待の若

手俳優たち。まずは、蜷川演出作品初参加となる多部未華子。近年は映像のみならず舞台へも活躍の場を広げ、2010年には松尾スズキ演出『農業少女』での演技で、第18回読売演劇大賞優秀女優賞および杉村春子賞を受賞している。そして、2012年の蜷川演出『ボクらの四谷怪談』でフレッシュな魅力を印象づけた三浦涼介。NHK連続テレビ小説『梅ちゃん先生』に出演し、成長著しい木村文乃。この瑞々しい顔ぶれが、少年少女たちの繊細な感情の揺れ動きをどう表現するのか注目が集まる。

また、人間関係を丁寧に掘り下げた作品に定評のある劇作家・演出家の倉持裕が脚本を担当する。

カズオ・イシグロはその小説の中で常に人間に対する普遍的な問いと向き合ってきた。本作においても、3人の男女の煌めく青春を通して限りある生における真実に迫る。カズオ・イシグロ固有の感性で紡がれた世界観を蜷川はどう表現するのか。稀有な才能をもつ二人がぶつかり合った時、目を奪われるような奇跡の舞台が誕生することは間違いない。

公演概要

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
『わたしを離さないで』

日時：2014年4月29日(火・祝)～5月15日(木)

4月	29	30	5月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	火	水		木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
13:00			13:00			★	★		★				★	★				
13:30		★	13:30	★	★			休		★	★	★			休	★	★	★
18:00	★		18:00			★							★					
18:30			18:30	★						★								★

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
原作：カズオ・イシグロ(『NEVER LET ME GO』)
脚本：倉持裕
演出：蜷川幸雄
出演：多部未華子、三浦涼介、木村文乃 ほか

チケット(税込)

一般・メンバーズ：S席9,000円/A席7,000円/B席5,000円(学生3,000円)
※本公演は、メンバーズ料金の設定はございません。
発売日：一般2014年1月18日(土) メンバーズ12月21日(土)
※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダー(抽選)があります。

Summa Sakai



大崎 結真

～静かに熱く、音列は香る～

東京藝術大学附属高校卒業後にヨーロッパへ留学。イタリアとフランスで研鑽を積み、多くの著名国際コンクールに入賞。大崎結真の10代前半の頃からの活躍ぶりを、ご存知の方も多いのではないだろうか。長らく拠点にしていたヨーロッパから日本に帰国後は、コンサートに加えて録音も積極的に行っている。そのいずれもが高い評価を得ているが、「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、最も自身に近しいというフランス音楽を聴かせてくれる。

取材・文◎上田弘子（音楽ジャーナリスト） Photo◎宮川舞子

——さかのぼること2002年7月13日。彩の国さいたま芸術劇場には、「ピアニスト100」シリーズに登場して以来ですよね。当時のことを憶えていらっしゃいますか。

あたたかいホールという印象が強く残っています。当時はまだ学生でしたから、プログラムを組むのも演奏することも、必死さの方が勝っていた気がします。

——今回はオール・フランス音楽ですが、フランスへの憧れは子供の頃からですか。

13歳の時にジャック・ルヴィエ先生のレッスンを受ける機会があり、その時にラヴェルの《鏡》を見て頂きました。その時の自分が出来る精一杯の表現をしたところ、「その音色で間違っていない」と言われたんです。それからは、もっともっと追究していきたいという思いが強くなって、やはりフランスでじっくり勉強しようと思ったんです。

——その音色は間違っていない……なよりの褒め言葉で、核心をついているとも思いますよ。さて今回のプログラムですが、先ほどの話の“音色”が、それぞれ異なりますよね。

ドビュッシーは印象派の作曲家だと譬えられますし、曲の題名も《亜麻色の髪の乙女》や《海》など想像しやすいものが多いです。でもドビュッシー自身は印象派の画家より英国の学派を好み、文学作品にしてもエドガー・アラン・ポーなどを愛読してい

ました。19世紀末の文化に強い興味を示し、幻想と怪奇を好み、かと思うと自然も大好きでした。ですから題名を具体的に表現しては、ドビュッシーの真意ではないと思います。

人や自然と多く係わったドビュッシーに相反して、ラヴェルは人工的なものを好んでいました。特に機械仕掛けの物が好きで、ゼンマイ仕掛けの鳥の置き物を「心臓の鼓動が聞こえる」と言って大切にしていたり、肖像写真は潔癖なまでに写る角度も表情も同じで服装もお洒落。まるで心に仮面と甲冑をつけているようなスタンスに、その根底には性癖やアイデンティティーに対するコンプレックスが感じられます。そのためラヴェルの曲の構成は完璧で、音質もドビュッシーよりクリア。でもその響きの中に彼の葛藤が見え、またふとした瞬間、血の通った人間性も感じられます。

——なるほど。音色は、色であり光であり、空気感も大切。それはフランスに住んで、もう理屈ではなく感じるわけですよね。

そうなんです。もちろんレッスンでも多くのことを学びましたが、作曲家が生きた場所を“感じる”ことは得難いことでした。

——魅力に溢れるドビュッシーとラヴェル作品に続き、後半は現代に近い作品。

確かにメシアンとデュティユーは、一般的には耳に馴染みが薄いかもかもしれません。ドビュッシーとラヴェルとは曲の作りや響きも異なりますが、また別の魅力

もあります。

メシアンは信仰心の深い人でした。曲にはキリストがモチーフになっていたり宗教色の強いものがありますから、仏教徒の私が理解できるだろうかとは以前は弾くことに二の足を踏んでいました。でも信仰心自体は人類共通のものでよね。なので過剰に題名に固執してしまっただけは、それこそドビュッシーやラヴェルと同じで、作品の本質を見失ってしまいます。

——全く同感です。デュティユーもメシアンと共に、現代の素晴らしい作曲家です。

デュティユーの《ピアノ・ソナタ》は、のちに彼の作品が発展していく“型”のようなものがあります。私がフランスに居た頃は、メシアンもデュティユーも、いわゆる現代音楽のくくりではなかったため、ドビュッシーとラヴェルから少し先の、フランス音楽の体系を楽しんで頂けると嬉しいです。

——少し抽象的な質問になりますが、今回のプログラムを色に譬えると何色でしょう。

そうですね……ん……青でしょうか。それも青空のような青ではなくて、青白いというか、焰ほのおのような青です。静かに燃えているけれど、内に秘めた強い思いがあるような。

——その色の感じは良く分かります。文字にしにくい、それこそ印象派ではないですがイメージですね。当日は、聴く人それぞれの「青」を思い描いて聴くのも楽しいですね。



大崎結真 (おおさき・ゆま)

東京藝術大学附属高校卒業後、渡欧。イモラ音楽院、パリ国立高等音楽院大学院、パリ・エコール・ノルマル音楽院コンサートイスト課程にて研鑽を積む。ジュネーヴ国際第3位、リーズ国際第3位、シヨバン国際ファイナリストなど入賞歴多数。2010年、拠点をパリから日本へ移し、第37回「日本シヨバン協会賞」受賞。CD『深碧あざみのラヴェル』は「レコード芸術」特選盤に選ばれた。

公演概要

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.23 大崎結真

日時：12月1日(日) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：ドビュッシー／版画
ラヴェル／水の戯れ
ラヴェル／夜のガスパール
メシアン／《幼子イエスに注ぐ20のまなざし》より
第11曲(聖母の最初の聖体拝領)・第13曲(ノエル)
デュティユー／ピアノ・ソナタ

チケット(税込) 好評発売中
一般：正面席 3,500円
メンバーズ：正面席 3,200円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了



ラファウ・ブレハッチ

「ピアノ・エトワール・シリーズ」の第1回に登場したブレハッチ。ぜひ再演を！の声も多く、まさに“アンコール”である。そして新シリーズの第1回に相応しいピアニストだろう。ブレハッチは2005年のショパン国際ピアノ・コンクール優勝の……と今さら説明するまでもなく、そしてコンクール後の成長には目を見張るものがある。ショパンは彼にとっては同郷の作曲家の域を超えた存在のはずだ。だからショパンの作品は、メジャーなものであろうと滅多に弾かれない曲であろうと、想いの深さは変わらない。なので今回のラインナップも魅力的で、マズルカやノクターンの中にある“心の歌”、ポロネーズやスケルツォでは雄々しいテクニクが表し出す“ドラマ”、いずれも楽しみだ。前半に置かれたモーツァルトとベートーヴェンも期待大。古典派の両巨匠の作品を、進化を続けるブレハッチがどう奏するか。聴き手にとって、少し早いクリスマス・プレゼントのような一夜になるだろう。

公演概要

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

日 時：12月17日(火) 開演19:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲 目：モーツァルト／ピアノ・ソナタ第8(9)番 二長調 KV 311(284c)
ベートーヴェン／ソナタ第7番 二長調 作品10-3
ショパン／夜想曲第10番 変イ長調 作品32-2
ショパン／ポロネーズ第3番 変イ長調 作品40-1「軍隊」
ショパン／ポロネーズ第4番 八短調 作品40-2
ショパン／3つのマズルカ 作品63
ショパン／スケルツォ第3番 嬰ハ短調 作品39

チケット(税込) 好評発売中
一般：正面席 5,000円
メンバーズ：正面席 4,500円
※バルコニー席・学生席は予定枚数終了

ラファウ・ブレハッチ

2005年、ショパン国際ピアノ・コンクール優勝、同時にマズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ツィメルマンによって創られたソナタ賞も受賞という快挙を成し遂げた。06年、ドイツ・グラモフォンと5年間の専属契約を締結。「ピアノ・エトワール・シリーズ」には、第1回目に出演(2007年6月)。



北村朋幹

1991年生まれ。2005年第3回東京音楽コンクール第1位・審査員大賞(全部門共通)受賞以来、国内外でのリサイタル、オーケストラとの共演、日本でのテレビ・ラジオへの出演を重ねる。11年には待望のソロ・デビューCDをリリース。現在、ベルリン芸術大学在学中。

北村朋幹

小柄な体の、一体どこにあれだけのパワーがあるのだろう。北村朋幹の繊細な音色は、単に綺麗な音ではなく、知性と教養の裏付けがある音質で、打鍵するや壮大な宇宙が展開する。今回のプログラムも驚きである。どの曲とてかなりの集中力を要す難曲なのだが、流れを見と納得もする。バロック時代からのフーガ(シューマン)で開始され、キリスト教聖歌のひとつであるセクエンツァ(ペリオ)から、信仰心も神智学まで行ったスクリャービンへと繋がりが、ベートーヴェンの巨星「ハンマークラヴィーア・ソナタ」に到達する。この「ハンマークラヴィーア・ソナタ」の終楽章にはフーガがある。そう、人生もフーガの如し。テーマが次から次へと発展し、思わぬ展開もある。いや、そもそも宇宙そのものがフーガと言える。破壊と再生を繰り返し、人類は輪廻転生。等々、北村朋幹の音楽宇宙を堪能しよう。

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール!

過去出演者の 「その後」を聴く

公演概要

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.2 北村朋幹

日 時：2014年3月15日(土) 開演14:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲 目：シューマン／4つのフーガ 作品72
ペリオ／セクエンツァ IV
スクリャービン／ソナタ第10番 作品70
ベートーヴェン／ソナタ第29番 変ロ長調 作品106
「ハンマークラヴィーア」

チケット(税込) 好評発売中
一般：正面席 3,500円／バルコニー席2,500円(学生1,000円)
メンバーズ：正面席 3,200円

Murray Perahia



Talk Session マレイ・ペライア×青澤隆明(音楽評論家)

リサイタルの余韻が残る中、彩の国さいたま芸術劇場公演限定のトークセッションが行われた。聞き手に音楽評論家の青澤隆明氏を迎え、満場の聴衆を前にペライアが語ったこととは――。

Photo ©加藤英弘

青澤 (以下A)：素晴らしいコンサートがありがとうございました。演奏が終わってまだ5分ほどしか経っていませんが、作曲家たちの世界から戻ってくることは難しくはないのでしょうか？

ペライア (以下P)：落ち着くには時間がかかります(笑)。今夜はきっと今日の演奏のことを思い出して眠れないでしょうね。

A：ペライアさんのリサイタル・プログラムはいつも、ピアノ音楽の重要で、魅力的な作品をきれいな流れにまとめられますね。

P：ひとつの作品を中心にコントラストをつけるようにしています。今回はベートーヴェンの「熱情」ソナタを中心に、バッハの「フランス組曲」を選びました。明るく楽しい印象に対して「熱情」はドラマチックで悲劇性を帯びた作品です。ベートーヴェンはシェイクスピアの影響を受けたと言っていますが、私が「熱情」で思い浮かべるのは『ハムレット』です。第1楽章は亡霊、第2楽章は亡き王への祈り、第3楽章はハムレットの復讐です。

A：プログラム後半、シューマンの《ウィーンの謝肉祭の道化》もとても魅力的です。ヴィルトゥオジティ*を要求される曲でもありませんよ。

P：プログラム後半、シューマンの《ウィーンの謝肉祭の道化》もとても魅力的です。ヴィルトゥオジティ*を要求される曲でもありませんよ。

P：ホロヴィッツ氏と一緒に勉強した曲の一つなのですが、彼は私にこんなことを言いました。「ヴィルトゥオジティを超えた素晴らしい音楽家になりたければ、まずはヴィルトゥオジティになることだよ」と(笑)。ヴィルトゥオジティというのはそれ自体が目標ではありません。書かれていることの下にあるメッセージを理解し、作品に込められた感情を理解すること。そうして作曲家たちとつながること。作曲家、曲の構成、内面や感情を勉強することは、とても重要だと思います。

A：1990年代後半からバッハに意欲的に取り組まれてきたこと、ベートーヴェンのヘンレ原典版の楽譜校訂を進めていらっしゃることも、最近の演奏に反映されていますか。

P：病気のために演奏できなかった時期があり

ましたが、このとき私はいつもバッハの音楽を聴き、深く心を動かされ、ある種の癒しを得ていました。また、バッハのコラールはとてもシンプルですが、すべてが詰まっています。あらゆる音楽の原点として考えられます。ベートーヴェンについては、ヘンレ原典版楽譜の編集に関わっていますが、もう数年かかるといいます。ソナタの32曲中10曲しか残されていない自筆譜と初版譜、様々な版、そしてスケッチ(下書き)を資料として校訂しています。いまちょうど「熱情」に取り組んでいるところです。非常に情熱をかき立てられる仕事ですよ。

A：後期のソナタも今後演奏会やCDで聴けると期待してよいのでしょうか。ソニーでの録音を集めて『The First 40 years (最初の40年)』というCD全集が出ましたが、まだ次の40年には十分時間はあると思います。

P：そうですね(笑)

A：さて続くショパンですが、彼もバッハやベートーヴェンを尊敬していました。

P：「熱情」と対応する暗い雰囲気曲にしようと考えました。スケルツォ第2番は恐ろしい雰囲気曲の作品で、ベートーヴェンの手法と通じるものがあり、この曲で終わらせたいと思いました。一方、即興曲はまるで詩のようです。

A：いつ聴いても美しい音ですが、ご自身の音を発見したのはいつ頃なのでしょう。

P：自分がこうありたいと想像する音をつかま

うとするだけで、どうやってかは分かりません。音楽を想像するために、ピアノから離れて過ごすこともあります。一度、ある情緒やムード、感情に深く入ると、それが肉体を動かし、音を作るのです。誰かの真似をするのではなく、なにかを想像して作られるのです。

A：ピアノを学ぶ若い世代に向けて、なにかメッセージをいただけますか。

P：音楽を勉強する上で一番重要なものは、音楽に対する愛情です。難しい曲を演奏しようと思ったら、技術的な練習を繰り返すだけではなりません。これは困難なプロセスです。自分を自分で批評しなければなりません。自分を自分で批評しなければなりません。何度か何度も練習しなければなりません。音楽への愛をいつまでも持ち続けるにはどうしたらよいか。音楽を聴くことは重要です。ハーモニーや対位法を学ぶのも重要。音楽のエッセンスを勉強することは、音楽の愛情を保つ上で大切なことなのです。

A：素晴らしい音楽の後に、このような対話の時間もいただきありがとうございました。今回の演奏会はこのホールで10年近く待望されたものだと言いましたが、またここでお会いできればと思います。

P：私も今日ここにいられて本当に嬉しく思います。どうもありがとう。

*華麗で卓越した演奏表現力、名人芸

(2013年10月19日 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール)



左より、青澤隆明氏、堀美夏子氏(通訳)、マレイ・ペライア氏

New Year Concert 2014

選りすぐりのオペレッタと《新世界から》で気分はウィーン

埼玉会館
ニューイヤー・コンサート2014

来年のニューイヤー・コンサートは、新春を飾るにふさわしい贅沢なコンサートとなる。ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約していた中嶋彰子が登場。ウィーンの薫りをそのままウィンナ・オペレッタの中でもとっておきの明るく楽しいアリアを披露する。負けじとオーケストラも新年の定番、《新世界から》でおめでたい気分を盛り上げる。

文◎奥田佳道（音楽評論家）

ウィーンとニューイヤー

ニューイヤー・コンサートの主役は、楽都ウィーンの調べと決まっている。洋楽事始めの時代から、きっとそう定義されているはずだ。冗談はともかく、ニューイヤーとウィーンの音楽は不可分の関係にある。よって「楽都ウィーンの調べ」の箇所は、心も躍るウィンナ・オペレッタにウィンナ・ワルツでも構わない。いや、そうでなければいけない。

世界40ヶ国に中継され、延べ視聴者数が3億人とも5億人とも言われるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団恒例のニューイヤー・コンサートが、私たち音楽好きの好奇心をくすぐり、年初めを華やかに彩るコンサートの形が決まった。普段は（基本的に）オペレッタを上演しないウィーン国立歌劇場も、大晦日と元日の夜は、シャンパンの泡もはじけるヨハン・シュトラウス2世の《こうもり》を上演することが、関係各方面並びに愛好家の法令によって定められている。

やはり生中継されるNHKのニューイヤー

オペラコンサートも聴き手を歌の世界へと誘う。ドヴォルジャークの《新世界から》の存在も、もちろん大きい。

しかし埼玉会館のニューイヤー・コンサート2014は、そんなニューイヤーの王道を奏でつつ、ひと味違う。

オペレッタの歌姫、中嶋彰子が歌う！

オペレッタの殿堂ウィーン・フォルクスオーパーの歌姫として、ほんとうに多くのファンを魅了した中嶋彰子が主演女優を演じるとなれば、そこに響くのは、観光地化されたウィーンではなく、古き良き時代の本物のウィーンである。

欧米のオペラハウスと契約した、あるいは現在も活躍中の日本人歌手は、私たちが漠然と思い描く以上に、多い。10年に渡ってウィーン国立歌劇場の専属歌手を務めた甲斐栄次郎や、ドイツのアルテンブルク市立歌劇場から宮廷歌手の称号を受けた小森輝彦のような方もいる。岡村喬生、木村俊光、林康

子、山路芳久、松本美和子、渡辺葉子といった諸先輩の足跡も忘れてはならない。

でも、伝統と格式を誇り、世界にファンをもつオペラハウスの顔となった歌手は、中嶋彰子をおいて他にいないのではないかと。

90年代の終わりから21世紀にかけて、彼女は文字通り、フォルクスオーパーを代表するプリマドンナだった。同劇場の冊子や月刊の特集フライヤー（チラシ）、上演の様子を紹介する劇場外壁のパネル写真、放送局のインタビューに新聞記事……。Soprano: Akiko Nakajimaの登場回数は群を抜いていた。スターだった。

モーツァルトの《魔笛》にドニゼッティの《愛の妙薬》。フランツ・レハールの《ロシアの皇太子》に《ルクセンブルク伯爵》……。旅の思い出話で恐縮だが、筆者も彼女のステージを何度も経験した。日本人として頑張っているソプラノではなく、ヨーロッパの劇場で喝采を博す歌役者、本物の舞台女優だった。1999年には、ダルムシュタット市立劇場で歌った《ルチア》により、ドイツを代表するオ

中嶋彰子（なかじま・あきこ）
ソプラノ

1990年、全豪オペラ・コンクール優勝。シドニーとメルボルンの歌劇場と契約し、《皇帝ティートの慈悲》のセルヴィアでデビュー。92年、ヨーロッパ国際放送連合年間最優秀賞受賞。99年、ウィーン・フォルクスオーパーと専属契約を経て現在はフリーの歌手として活躍中。第14回「出光音楽賞」受賞。最新CDは中嶋初のアリア集となる『ウィーン、わが夢の街』。



小泉和裕（こいずみ・かずひろ）指揮

1969年東京藝術大学指揮科に入学。山田一雄氏に師事。73年、第3回カラヤン国際指揮者コンクール第1位入賞。その後ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮。75～79年、新日本フィルハーモニー交響楽団音楽監督。75年、ベルリン・フィルの定期演奏会に出演、ザルツブルク音楽祭でウィーン・フィルハーモニー管弦楽団を指揮、ヨーロッパ各地、アメリカにて精力的な指揮活動を行った。これまでに東京都交響楽団、大阪センチュリー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者を歴任。2008年より日本センチュリー交響楽団音楽監督、東京都交響楽団レジデント・コンダクター。13年4月より九州交響楽団音楽監督就任。



Photo © K.Miura

中井美穂



ペラ雑誌オーバングヴェルト誌の年間最優秀新人賞にも選ばれた。

歌にお芝居、それにダンスも。抜群のステージ・パフォーマンス！を見せる中嶋彰子は、フォルクスオーパーで喝采を博したウィンナ・オペレッタのアリアを歌う。

魅惑のオペレッタ・アリア

まずは、チロルを舞台としたカール・ツェラー（1842～1898）のオペレッタ《小鳥売り》（1891）。アリア“私は郵便配達人のクリステル”は、中嶋のテーマソングのひとつである。トランペットのファンファーレに導かれる、この澁刺としたアリアは、村の郵便配達人の娘クリステル登場の一曲、喜びいっぱい自己紹介のアリアだ。何とも心憎い選曲ではないか。

ヨハン・シュトラウス2世の時代を受け継

いだのだが、オペレッタ《メリー・ウィドウ》やワルツ《金と銀》でおなじみのフランツ・レハール（1870～1948）で、ハンガリー系の楽長レハールはハッピーエンド一辺倒だったオペレッタに、涙や別れを添えた、いわばオペレッタ界のブッチーニ。異国情緒も素晴らしい、史上最高峰の旋律作家（メロディ・メーカー）である。

いつもの「ヴィリアの歌」や「メリー・ウィドウ・ワルツ」もいっけいけれど、2014年の幕開けには、ウィーンっ子が愛してやまない、かつ中嶋の魅力が満開となる情熱の歌を。《ジュディッタ》は1934年、ウィーン国立歌劇場！で作曲家自身によって初演されたレハール芸術の昇華である。身分違いの恋を描いた《ロシアの皇太子》で踊り子ソーニャが歌う“誰かがくるでしょう、私はさっと愛する人と巡り合える”に涙しない聴き手も、いない。中嶋彰子の十八番だ。

信頼関係で結ばれた小泉和裕と新日本フィルハーモニー交響楽団が奏でる《ウィンザーの陽気な女房たち》序曲に遅れなきよう。ウィーン・フィル創設に関わったオットー・ニコライ（1810～1849）の名刺曲で、このオープナーを含めて指揮者とオーケストラの「響宴」も客席の喜びとなる。

《新世界から》は、
カルチャーショック、郷愁が
盛り込まれた大ヒット作

サブタイトルに新鮮で希望に満ちたイメージがあるためか《新世界から》は新年に演奏される機会が多い。作曲したのはチェコの作曲家ドヴォルジャーク。彼は請われてアメリカの音楽院教授職に就くことになり、1892年から約2年半ニューヨークに滞在した。交響曲第9番はアメリカ時代の最初の大作で、サブタイトルの“新世界”とはアメリカ合衆国のこと。1893年12月15日現カーネギーホールでの初演は、大成功を収めた。

当時珍しく黒人差別の少なかった音楽院内でドヴォルジャークは黒人の生徒たちと接し、黒人霊歌を体験した。アメリカ民謡やネイティブ・アメリカンの音楽にも触れ、そういったアメリカの語法を生かし、また大都会ニューヨークで経験した想像をこえたエネルギー、メンバーといったカルチャーショック、故郷ボヘミアへの郷愁などを盛り込んで作られたのが《新世界から》だ。弦楽四重奏曲へ長調作品96「アメリカ」なども作られ、ドヴォルジャークにとってアメリカ滞在は、経済的に恵まれ異文化体験もできた大変幸せな時代だった。

第2楽章は、アメリカの詩人ロンゲフェローの叙事詩「ハイアワサの歌」（ネイティブ・アメリカンの英雄を謳った英雄譚）にインスパイアされている。この旋律に堀内敬三が歌詞を付けたのが《遠き山に日は落ちて》である。

New Year Concert 2014
公演概要埼玉会館ニューイヤー・コンサート2014
新日本フィルハーモニー交響楽団
小泉和裕（指揮） 中嶋彰子（ソプラノ） 中井美穂（司会）

日時：2014年1月11日（土）開演15:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：ニコライ：歌劇《ウィンザーの陽気な女房たち》より 序曲
ツェラー：喜劇《小鳥売り》より “私は郵便配達人のクリステル”
レハール：喜劇《ジュディッタ》より “唇に熱き口づけを”
マスカーニ：歌劇《カヴァレリア・ルスティカーナ》より 間奏曲
レハール：喜劇《ロシアの皇太子》より “誰かがくるでしょう”
ドヴォルジャーク：交響曲第9番《新世界から》

チケット（税込）好評発売中

一般：S席5,000円/A席4,000円/B席3,000円（学生1,500円）
メンバーズ：S席4,500円/A席3,600円/B席2,700円

Berlin Philharmonic Wind Quintet

ベルリン・フィルハーモニー 木管五重奏団 クリニック

世界最高峰のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーによるクリニックが、2008年に続き今年も行われた。一流の演奏家たちの熱の入った指導に、生徒たちは真剣に耳を傾けていた。

Photo ©加藤英弘



生徒たちの声

受け身ではだめ。精神的にも楽器を弾く準備をすることが重要とわかった



生徒たちの声

唇を柔らかくして吹くなどという技術的なことではなく、「ライオンが吠えるように吹く」といったイメージで練習することも大切だということを教えられた



生徒たちの声

「自分の音をよく聴いて、自分で自分を教える」という先生の言葉がとても印象深かった

生徒たちの声

生でプロの音を聴けたので、とても刺激になった。高音のイメージや、音を歌うなどたくさんのお話を学べ、自由に吹くのも楽しくよかった



生徒たちの声

良い音色を出すには、耳を自分が思っている以上に使わなくてはならないとわかった



9月28日、コンサートを前に行われたクリニックを受講したのは、埼玉県内の高校に通う音楽科や吹奏楽部の生徒たち。フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの5グループに分かれ、わずか1時間という短い時間の中、クリニックの内容は、曲に取り組む以前の音を出す構え、気持ちの持ちよう、呼吸法などに重点が置かれた。

「ヴァイオリニストが弓の扱い方を練習するように、私たちは体の中を流れる空気の柱をコントロールする練習をすることが大切」とオーボエのアンドレアス・ヴィットマン氏は言う。どのグループも息の吐き方やお腹の使い方を丁寧に教わっていた。ホルンのファーガス・マクウィリアム氏は「自分の音を自分の耳でよく聴いてください。あなた自身があなたの方の先生なのです」と練習に対する心構えを伝え、3オクターヴ半を一息で吹くアルペジオの手本を聴かせると、緊張していた生徒たちはその音色の素晴らしさに目を輝かせた。

一流の演奏家と触れ合う意味

「日常の練習はどうしても技術的な指導に重点が置かれてしまいますが、もっとエモーショナルな部分、感情を演奏にこめるとい

アプローチは新鮮でした。そこからなぜ思うように吹けないのか、それは気持ちが乗っていないからだということが理解できるようになればよいですね」と顧問の先生は言う。また「世界の一流の演奏家が出す音を間近で聴けたということは、生徒たちにとって何にも代え難い経験になったと思います。ステージで演奏されているのを聴くのと、目の前で聴くのとではまるで違います」と語ってくれたように、生徒たちからも「音の響きが全然違う」「先生みたいな音を出せるようになりたい」という声が多く聞かれた。

ベルリン・フィルのメンバーはこのようなクリニックをワークショップも含め、時々行っているとのこと。ホルン奏者マクウィリアム氏は次のように語ってくれた。「私たちは別世界にいるわけではありません。世界のトップのオーケストラは山の頂上に位置していますが、昔の私がそうだったように、誰もがゆっくりと頂上を目指して登っていかなくてはなりません。そしてトップオーケストラにいる人間は、『あなたもここに來ることができると』と若い人たちを励まし助けることができるのです。それは技術的なことよりも大事なことです。わずかな時間でも彼らと直接触れ合える時間を持つようになっています」。

アーティストの原点

vol. 13

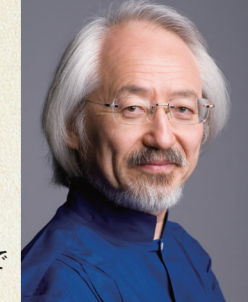
Masaaki Suzuki

指揮者 鈴木雅明 オルガン・チェンバロ奏者

バッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ) の音楽監督としてバリオド奏法の最先端をいく鈴木雅明。バリオド楽器による古楽演奏が隆盛していくのを学生時代からリアルタイムに体験、自身も系譜の一員であり今やその中心にいる。今日に至るまでにはさまざまなバッハの作品、演奏家との出会いがあった。

取材・文 ©加藤浩子 (音楽評論家)

Photo © Marco Borggreve



「バッハの音楽は言語や宗教を超えます」

初めてバッハに心を動かされたのは、中学生の時、カール・リヒターの指揮した《口短調ミサ曲》の録音でした。その前からピアノは習っていて、《インヴェンション》とかバッハの作品は演奏していたはずなんですけど、先生のところで習った記憶がなくて(笑)。東京藝術大学の受験の時は《平均律クラヴィーア曲集》をやりましたけれど。

《平均律》は難しいですよ。とくに第1巻。実際練習曲ではあるし、まとめて弾いたり聴いたりするように体系化されているんですけど、同時に調性の体系を示すとか、いろんなパターンの実験とか、明瞭な目的を持って書かれている。それが、バッハの存在意義なんですけれどね。

中学、高校ではオルガン音楽にもはまりました。1曲1曲の違いが面白かったし、フーガの複雑さに惹かれました。どうも、対位的な音楽が好きなんです。自分で演奏していて一番好きなのは《6声のリチェルカーレ》(注《音楽の捧げもの》の1曲)です。

カンタータは高校の頃からヘルムート・

リリングの録音で聴いていましたけれど、面白いと思い始めたのは藝大でカンタータクラブに入ってからです。東京文化会館の資料室に入り浸って、色んな演奏を聴きました。ちょうど(バリオド楽器*2による初の録音である)アーノンクールとレオンハルトの盤も始めた頃でした。

それと、通奏低音*3が弾きたさに、声楽の伴奏もたくさんしたんですね。ほとんどすべての声楽科の先生のところで、レッスンの伴奏をしたんじゃないかなあ。そしてその頃、鍋島元子さんにチェンバロを師事しました。僕にとっては強烈な

であるということでした。お客さんも順調に増えていって、バッハの、そして彼の作品自体の認知度も上がりました。今では日本だけではなく世界中の、それもモダンのオーケストラがバッハを演奏したがついてきます。

バッハの音楽ってというのは、音楽以外のところに目的があるんです。世界観とか。宇宙観とか。バッハ自身はそれを意識していた訳じゃないと思うし、音楽が自己表現になる19世紀より前の、18世紀以前の音楽自体がそのようなものではあるんですが。なので、テキストのない器

楽曲は、音楽の意味を外側で確立させる。逆にその音楽を使って、テキストを表現することが可能なんです。カンタータのような教会音楽のテキストは、テキストの文学的な価値が高くなくとも、バッハの音楽によってテキストの価値が高められる。それは、テキストがわからなくとも聴き手に通じます。だから、ドイツ語に通じていない、

あるいは教会とは関係のない日本の聴衆にも訴えるものがあるのでしょうか。

*1 各パートを対等に扱う作曲法。*2 作曲当時、演奏に用いられていた楽器のこと。古楽器、オリジナル楽器ともいう。*3 バロック時代に特徴的な演奏法で、ベースの低音のみ記譜され、奏者が自分で低音の上に和音を付け足して演奏を行う。

すぎき・まさあき 1990年「バッハ・コレギウム・ジャパン(BCJ)」を創設以来、バッハ演奏の第一人者として名声を博す。グループを率いて欧米の主要なホール、音楽祭に度々登場しており、雄弁かつ透明なサウンド、本質に迫る演奏アプローチで、極めて高い評価を積み重ねている。2012年にはドイツ・ライプツィヒ市より、国際的なバッハ演奏員に対して「バッハ・メダル」が贈られた。



6歳の時、ピアノ発表会にて

存在でしたね。鍋島先生はレオンハルトの弟子なんですけど、あの世代は古楽が市民権を得るために戦っていた世代です。今ではたとえば「カンタータ」という言葉は市民権を得たと思うけれど、当時は違った。

藝大を出て留学し、教職を得て、大阪のホールのオープニングをきっかけにBCJを結成しました。カンタータの連続演奏会を始めてすぐ気づいたのは、バッハの音楽のファンは僕らが思っているよりずっとよく知っていて、長く聴き込ん

column

ショパン愛に溢れた父

父はピアノが大好きでした。とくにショパン。僕が少しでもショパンを弾くと、父が飛んできてレッスンされてしまいました(笑)。一方で、「音楽は、実はバッハから始まったのだ」なんて知ったかぶりをしていましたが、実際は、バッハについてはあまり知らなかったと思います(笑)。それでも晩年は教会でオルガンを弾くようになって本格的にバッハにのめり込み、最後は《マタイ受難曲》ばかり聴いていました。そして、僕らがある演奏会で《マタイ》を演奏した翌日に亡くなったのです。

PLAY 9月5日~22日

彩の国シェイクスピア・シリーズ第28弾 『ヴェニスの商人』



シェイクスピア屈指の人気作がオールメール・シリーズとして満を持して登場。歌舞伎で培ったあらゆる演技技術を駆使し、伝統芸能の世界に生きる俳優の底力を見せつけた市川猿之助シャイロックが劇空間を圧倒した。嫌われ者の金貸しをとことん憎々しく演じつつ、異教徒ゆえに迫害を受けるユダヤ人の悔しさ、理不尽に対する憤りが炎のごとく燃え上がる。こてんぱんにやりこめられるシャイロックに、つい肩入れしたくなってしまうという逆転現象。勧善懲悪の大団円に溜飲を下げるよりも、敗北した男の哀切が身に迫る幕切れとなった。高橋克実の大方かさ、横田栄司の向こう見ずな一途さに加え、オールメール・シリーズには久々の登場となった中村倫也がポーシャを好演。理知的でチャーミングなヒロイン像を鮮烈に印象づけた。

Photo ©清田征剛



PLAY 9月21日・22日

親子のためのファミリー・ミュージカル
『ピノキオ~または白雪姫の悲劇~』

『白雪姫』の物語が始まると思いきや、スリル満点の『ピノキオ』の世界へ。個性豊かなキャラクターが登場するたび、素直に反応する子どもたち。問いかけには大きな声でお返し、ワルモノがよからぬことを企んでいれば「あぶないよ!」と声を上げる。クジラに飲み込まれたピノキオのために会場中が一致団結して協力する趣向も。心躍る歌もふんだんに、終演後は「楽しかったね~」と言い合う親子連れの姿があちこちで見られた。

© KAAT 神奈川芸術劇場



PLAY 9月27日~10月20日

『ムサシ』ロンドン・NYバージョン

井上ひさし晩年の傑作が三たび登場。巖流島の決闘に後日談があった……という井上戯曲らしい奇想から、爆笑に次ぐ爆笑の果てに報復の連鎖を断つという大きなテーマが浮かび上がる。少数精鋭キャスト陣のチームワークもより強固となり、クライマックスではシンプルで真っ直ぐな台詞の数々が胸に突き刺さった。初演以来宮本武蔵を演じる藤原竜也が研ぎ澄まされた野性味を増し舞台を引っ張り、新加入の佐々木小次郎役・溝端淳平のひたむきさが、舞台に清々しい風を呼び込んでいた。

Photo ©渡部孝弘



DANCE 10月18日~20日

dancetoday2013 ダブルビル
島地保武+酒井はな <アルトノイ> 『詠う~あなたが消えてしまうまえに~』
関かおり 『アミグレクタ』

若手振付家やダンサーたちが実験的な作品創りに取り組む「dancetoday」シリーズ第3弾。まずは、ザ・フォーサイス・カンパニーで活躍する島地保武と、圧倒的な人気を誇るプリマ・バレリーナの酒井はなが登場。出自の異なる2人が共同振付をし、公私にわたるパートナーの2人にしか生み出すことのできない表現で、人間や自然への優しさがあふれる世界を創り上げた。そして、振付家として受賞が続く関かおりは、自身を含むダンサー5人による豊かな感性に満ちた空間を創った。ほぼ無音の中、細胞のひとつひとつに宿る感覚を丁寧にすくい上げて生み出された動きは、何か謎の生命体が蠢いているようで、観る者の想像力をかきたてる。圧倒的な強度と求心力で観客を釘づけにした。

Photo © Arnold Groeschel



MUSIC 9月17日 (埼玉会館 大ホール)

Photo ©加藤英弘



埼玉会館ランチタイム・コンサート 第23回
モディリアーニ弦楽四重奏団

バリ国立高等音楽院在学中の2003年に結成された弦楽四重奏団。「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」でも人気の高い彼らが、ランチタイム・コンサートに初登場。プログラムはハイドンの「ひばり」より第1楽章、ラヴェルの《弦楽四重奏曲へ長調》の2曲が組まれた。いずれもびたりと息の合ったアンサンブル、透明感あふれる音色で聴衆を魅了し、ハーモニーの美しさを余すことなく味わうことができた。

MUSIC 9月28日

Photo ©加藤英弘



ベルリン・フィルハーモニー木管五重奏団

世界屈指のトップ・オーケストラ、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーで構成された木管五重奏団。古典派、20世紀前半の音楽が並んだプログラムが披露された。高度なテクニック、音の柔らかさと広がり、多彩な表現力、アンサンブルの精確さ、これらすべてが圧巻で、かつ絶妙な美しさを湛えていた。結成から25年もの間に育まれてきた結束力をベースに、5人が創り出す豊かな響きに耳を奪われた。

(演奏会の前に、埼玉県内の高校に通う音楽科や吹奏楽部の生徒を対象としたクリニックが開催された。詳細はP.16にて)

MUSIC 10月5日 (埼玉会館 大ホール)

Photo ©加藤英弘



NHK交響楽団
秋山和慶(指揮) 伊藤 恵(ピアノ)

日本を代表する指揮者・秋山和慶と、日本のトップ・オーケストラNHK交響楽団の久々の顔合わせ。モーツァルトの《ピアノ協奏曲 第20番》では、ソリストの伊藤恵が澄み切ったタッチで、美しく薫り高い演奏を披露。ベルリオーズの《幻想交響曲》は、今年8月にN響が初出演したザルツブルク音楽祭でも演奏した大曲。一音一音が冴えわたり、細かな部分まで磨きあげられた完成度の高い演奏で、甘美でドラマチックな「幻想」を十分に堪能できた。

MUSIC 10月19日

Photo ©加藤英弘



マレイ・ペライア ピアノ・リサイタル

過去2度の公演中止を乗り越え、実現した待望のステージ。ペライアの深化を聴かせるプログラムが組まれた。バッハの《フランス組曲》に始まり、ベートーヴェンの「熱情」は、ダイナミックで情熱的、詩情にあふれた名演。シューマンの《ウィーンの謝肉祭の道化》では多彩な情景を浮かび上げさせ、ショパンではその美音が聴衆を魅了した。会場中が最後の一音まで集中して聴き入り、温かく濃密で、音楽への愛情に溢れたペライアの音世界に浸ることのできた至福の時間だった。

(終演後、マレイ・ペライア氏と音楽評論家の青澤隆明氏によるトークセッションが行われた。詳細はP.13にて)

PLAY		DANCE		MUSIC		CINEMA & EVENT	
11 november	開演時間	11 november	開演時間	11 november	開演時間	11 november	開演時間
15 金		15 金		15 金		15 金	
16 土		16 土		16 土		16 土	
17 日		17 日		17 日		17 日	
18 月		18 月		18 月		18 月	
19 火		19 火		19 火		19 火	
20 水		20 水		20 水		20 水	
21 木		21 木		21 木		21 木	
22 金	19:00	22 金	15:00	22 金	19:00	22 金	19:00
23 土	19:00	23 土		23 土	19:00	23 土	19:00
24 日	14:00/19:00	24 日		24 日	14:00/19:00	24 日	14:00/19:00
25 月	19:00	25 月		25 月	19:00	25 月	19:00
26 火		26 火		26 火		26 火	
27 水		27 水		27 水		27 水	
28 木		28 木		28 木		28 木	
29 金		29 金		29 金		29 金	
30 土		30 土		30 土		30 土	
12 december		12 december		12 december		12 december	
1 日		1 日		1 日		1 日	
2 月		2 月		2 月		2 月	
3 火		3 火		3 火		3 火	
4 水		4 水		4 水		4 水	
5 木		5 木		5 木		5 木	
6 金		6 金		6 金		6 金	
7 土		7 土		7 土		7 土	
8 日		8 日		8 日		8 日	
9 月		9 月		9 月		9 月	
10 火		10 火		10 火		10 火	
11 水		11 水		11 水		11 水	
12 木		12 木		12 木		12 木	
13 金		13 金		13 金		13 金	
14 土		14 土		14 土		14 土	
15 日		15 日		15 日		15 日	
16 月		16 月		16 月		16 月	
17 火		17 火		17 火		17 火	
18 水		18 水		18 水		18 水	
19 木		19 木		19 木		19 木	
20 金		20 金		20 金		20 金	
21 土		21 土		21 土		21 土	
22 日		22 日		22 日		22 日	
23 月		23 月		23 月		23 月	
24 火		24 火		24 火		24 火	
25 水		25 水		25 水		25 水	
26 木		26 木		26 木		26 木	
27 金		27 金		27 金		27 金	
28 土		28 土		28 土		28 土	
29 日		29 日		29 日		29 日	
30 月		30 月		30 月		30 月	
31 火		31 火		31 火		31 火	
1 january		1 january		1 january		1 january	
1 水		1 水		1 水		1 水	
2 木		2 木		2 木		2 木	
3 金		3 金		3 金		3 金	
4 土		4 土		4 土		4 土	
5 日		5 日		5 日		5 日	
6 月		6 月		6 月		6 月	
7 火		7 火		7 火		7 火	
8 水		8 水		8 水		8 水	
9 木		9 木		9 木		9 木	
10 金		10 金		10 金		10 金	
11 土		11 土		11 土		11 土	
12 日		12 日		12 日		12 日	
13 月		13 月		13 月		13 月	
14 火		14 火		14 火		14 火	
15 水		15 水		15 水		15 水	
16 木		16 木		16 木		16 木	
17 金		17 金		17 金		17 金	
18 土		18 土		18 土		18 土	
19 日		19 日		19 日		19 日	
20 月		20 月		20 月		20 月	
21 火		21 火		21 火		21 火	
22 水		22 水		22 水		22 水	
23 木		23 木		23 木		23 木	
24 金		24 金		24 金		24 金	
25 土		25 土		25 土		25 土	
26 日		26 日		26 日		26 日	
27 月		27 月		27 月		27 月	
28 火		28 火		28 火		28 火	
29 水		29 水		29 水		29 水	
30 木		30 木		30 木		30 木	
31 金		31 金		31 金		31 金	

PLAY
 彩の国さいたま芸術劇場
 開館20周年記念
「わたしを離さないで」

チケット発売日 一般：2014年1月18日(土)
 メンバース：12月21日(土)
 ※メンバーズプレオーダー(抽選)があります。

DANCE
 彩の国さいたま芸術劇場
 開館20周年記念
**ピナ・バウシュ
 ヴッパタール舞踊団
 「KONTAKTHOF - コンタクトホフ」**

チケット発売日 一般：12月1日(日)
 メンバース：11月24日(日)

MUSIC
 埼玉会館ランチタイム・コンサート第25回
**NHK交響楽団
 12人のチェリストたち**

4月のランチタイム・コンサートには、NHK交響楽団の
 チェロ・パート12名が勢揃い! 豊潤な響きをご堪能くだ
 さい。

チケット発売日 一般：12月8日(日)
 メンバース：12月7日(土)

日時：2014年4月25日(金) 開演12:10(終演予定
 13:00)
 会場：埼玉会館 大ホール
 出演：藤森亮一、向山佳絵子、銅銀久弥、山内俊輔、
 西山健一、村井 将、宮坂弘志、市 寛也、
 藤村俊介、桑田 歩、三戸正秀、渡邊方子
 曲目：クレンゲル/賛歌
 J.S.バッハ/シャコンヌ ほか
 チケット(税込)
 全席指定1,000円

彩の国さいたま芸術劇場
 開館20周年記念
**ピアノ・エトワール・シリーズ
 Vol.24 ベフゾド・アブドゥライモフ
 Vol.25 萩原麻未
 Vol.26 アレクサンダー・ロマノフスキー
 アンコール! Vol.3 小菅 優**

2014年度も注目目の気鋭ピアニストたちが集結。「ア
 ンコール!」にはリクエストが多く寄せられている小菅優
 が登場します。



Photo © Decca / Ben Ealovega Photo © Akira Muto
 Photo © Marco Borggreve

チケット発売日 [4公演セット券]
 一般：12月21日(土) メンバース：12月14日(土)

日時・曲目：【Vol.24】2014年6月8日(日) 開演15:00
 サン＝サーンス(リスト/ホロヴィッツ編曲)/
 死の舞踏 ほか
 【Vol.25】2014年6月22日(日) 開演15:00
 ラヴェル/高雅で感傷的なワルツ ほか
 【Vol.26】2015年1月17日(土) 開演15:00
 ショパン/ノクターン第2番 変ロ短調 ほか
 【アンコール! Vol.3】
 2014年9月13日(土) 開演15:00
 ベートーヴェン/ノクターン第21番 八長調
 「ヴァルトシュタイン」ほか
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 チケット(税込)
 【4公演セット券】一般・メンバーズ：正面席12,500円/
 バルコニー席10,500円(学生4,500円)



彩の国さいたま芸術劇場
 開館20周年記念ロゴマークが
 できました!

来年、開館20周年を迎える彩の国さい
 たま芸術劇場では、皆様の長年の御愛顧へ
 の感謝の気持ちと、劇場の更なる発展を
 願い、各種の記念事業や企画展を開催し
 ます。ロゴには、劇場の中心にあり、4つ
 の専門ホールをつなぐシンボルである「ガ
 ラスの光庭」をあしらいました。

彩の国さいたま芸術劇場
 開館20周年記念
**「次代へ伝えたい名曲」第1回
 堤 剛 チェロ・リサイタル**

Photo © 大野純一

現代日本を代表する音楽家た
 ちが「次代へ受け渡したい名
 曲」を奏でる新シリーズ。初
 回は「これぞチェロのレパト
 リーを代表する作品群」とい
 うプログラムを、堤剛の演奏で。

チケット発売日 一般：2014年1月18日(土)
 メンバース：2014年1月11日(土)

日時：2014年5月24日(土) 開演14:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
 出演：堤 剛(チェロ)、上田晴子(ピアノ)
 曲目：ベートーヴェン/チェロ・ソナタ 第5番 二長調
 武満 徹/オリオン ほか
 チケット(税込)
 一般：正面席4,000円/バルコニー席3,000円(学生
 1,500円)
 メンバース：正面席3,600円

※各公演の単独券は順次発売します。
 【Vol.24、Vol.25】
 一般2014年2月1日(土) メンバース1月25日(土)
 【Vol.26】
 一般2014年7月26日(土) メンバース7月19日(土)
 【アンコール! Vol.3】
 一般2014年4月19日(土) メンバース4月12日(土)

[チケットの購入方法について]

インターネット



「SAF オンラインチケット」で、
 発売初日 10:00 から公演前日
 オンラインチケット 23:59 まで受付いたします。

トップページの「チケット購入」からお進みください。
 【PC・スマートフォン】 <http://www.saf.or.jp/>
 【携帯】 <http://www.saf.or.jp/mobile/>

【クレジットカード決済→コンビニ発券】
 ※チケット代のほかに、【チケット一枚につき】システム利用料 135 円、
 店頭発券手数料 105 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
 ※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円
 (代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット 1 枚につき】システム
 利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

電話予約



●チケットセンター
0570-064-939
 10:00 ~ 19:00 (彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)
 ※一部の携帯電話、PHS、IP 電話からは受付できません。

【クレジットカード決済→宅配便で配送】
 ※チケット代のほかに、【配送1件につき】配送料 300 円が必要です。

【コンビニ支払い→コンビニ発券】
 ※チケット代のほかに、【お支払い1件につき】振込手数料 210 円
 (代金合計 3 万円以上は 410 円)、【チケット 1 枚につき】システム
 利用料 135 円、店頭発券手数料 105 円が必要です。

【窓口で支払い・引取り】 ※手数料はかかりません。

窓口販売



下記窓口で直接購入いただけます。
 電話予約したチケットの引取もできます。

●彩の国さいたま芸術劇場 (10:00 ~ 19:00)
 ●埼玉会館 (10:00 ~ 19:00)
 ●熊谷会館 (10:00 ~ 17:00) ※休館日をお確かめの上
 ご来場ください。

現金もしくはクレジットカード決済、
 その場でチケットをお渡します。
 ※手数料はかかりません。

財団メンバーズのお客様は、いずれの場合も便利な「口座引落」でのお支払い、チケットは無料配送いたします。

PLAY

【ザ・ファクトリー4】
さいたまネクスト・シアター
『ヴォルフガング・ボルヒェルト
の作品からの九章』

詳細は
⇒ P.8

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～春風亭昇太 新春特選落語会

日時：2014年1月26日(日) 開演14:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：春風亭昇太、三遊亭天どん、立川志の吉、
春風亭柳若
チケット(税込)
一般3,000円 メンバーズ2,700円
ゆうゆう割引(65歳以上・障がい者) 2,000円

DANCE

第4回埼玉県障害者アートフェスティバル
近藤良平と障害者によるダンス公演
『僕はもう 動いてないと ダメなんだ』

日時：11月30日(土)、12月1日(日) 各日開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
構成・振付：近藤良平
出演：ハンドルス(ワークショップ参加者/
池田彩織、池田香織、藤田善宏、近藤良平)
チケット(税込)
一般1,500円(障がい者・学生1,000円)
主催：埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会
共催：公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

【お問合せ先】
埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会事務局
(埼玉県福祉部障害者福祉推進課内)
TEL. 048-830-3312

【提携公演】
ダンスセッション 2014

日時：2014年2月2日(日) 開演13:00/17:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
演目：テロ・サリネン振付作品『MESH』、
クラシックバレエ作品『ヴィヴァルディ：四季』、
第46回埼玉全国舞踊コンクール 創作舞踊部門
第一位作品

チケット(税込)：全席自由5,000円
主催：埼玉県舞踊協会
提携：彩の国さいたま芸術劇場

【チケットのご購入・お問合せ先】
埼玉県舞踊協会 TEL. 048-882-7530
※SAFチケットセンター、3館窓口でのお取扱いはご
ざいませぬ。
※詳細は埼玉県舞踊協会ホームページ(<http://www.saitamaken-buyoukyokai.jp>)をご覧ください。

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.23 大崎結真

詳細は
⇒ P.10
~11

バッハ・コレギウム・ジャパン
モーツァルト《レクイエム》

日時：12月7日(土) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：鈴木雅明(指揮)、
キャロリン・サンブソン(ソプラノ)、
マリヤンネ・ペアーテ・キアラント(アルト)、
アンドリュウ・ケネディ (テノール)、
クリスティアン・イムラー (バス)、
バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)
曲目：モーツァルト/証聖者の荘嚴な晩課
(ヴェスプレ) ハ長調 KV 339
モーツァルト/レクイエム 短調 KV 626
チケット(税込)
一般：正面席8,000円/バルコニー席7,000円(学生
3,000円)
メンバーズ：正面席7,200円

埼玉会館ランチタイム・コンサート
第24回 きりく・ハンドベルアンサンブル

日時：12月13日(金) 開演12:10(終演予定13:00)
会場：埼玉会館 大ホール
出演：きりく・ハンドベルアンサンブル
曲目：J.S.バッハ/主よ、人の望みの喜びよ
カッチーニ/アヴェ・マリア ほか
チケット(税込)：全席指定1,000円

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.1
ラファウ・ブレハッチ

詳細は
⇒ P.12

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2014
新日本フィルハーモニー交響楽団
小泉和裕(指揮) 中嶋彰子(ソプラノ)
中井美穂(司会)

詳細は
⇒ P.14
~15

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.2 北村朋幹

詳細は
⇒ P.12

彩の国さいたま芸術劇場開館20周年記念
バッハ・コレギウム・ジャパン
バッハ《マタイ受難曲》

日時：2014年4月19日(土) 開演16:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出演：鈴木雅明(指揮)、ハンナ・モリソン(ソプラノ)、
クリント・ファン・デア・リンデ(アルト)、
ゲルト・テュルク(テノール：福音史家)、
ペーター・コーイ(バス：イエス)、
バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱・管弦楽)
チケット(税込)
一般：正面席9,000円/バルコニー席7,500円(学生
3,000円) メンバーズ：正面席8,100円

料金：大人1,000円/小中高生800円(当日支払いのみ)
※12月の「ベニシアさんの四季の庭」は、一般1,500円、60歳以上・
小中高生・障がい者1,000円です。 ※2014年1月の成瀬巳喜男
監督特集は、大人・小中高生とも1作品500円です。

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2013.12→2014.2



「ベニシアさんの四季の庭」
©ベニシア四季の庭製作委員会 2013

12月6日(金)~8日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

A『ベニシアさんの四季の庭』
B『天のしずく 辰巳芳子
“いのちのスープ”』

6日(金) 10:30(A)/13:20(B)/16:50(A)/19:30(B)
7日(土) 10:30(B)/13:40(A)/16:20(B)/19:20(A)
8日(日) 10:30(A)/13:20(B)/16:20(A)/19:00(B)

「ベニシアさんの四季の庭」 監督：菅原和彦 出演：ベニシアスタンリースミス ほか (2013年/日本/98分)
「天のしずく 辰巳芳子 “いのちのスープ”」 監督・脚本：河邑厚徳 出演：辰巳芳子 ほか
(2012年/日本/113分)

※6日(金) 13:20 上映終了後、「天のしずく」監督・河邑厚徳氏によるアフタートークがあります。



「浮雲」

2014年1月10日(金)~12日(日)
会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

優秀映画鑑賞推進事業 成瀬巳喜男監督特集
A『めし』 B『おかあさん』
C『浮雲』 D『乱れ雲』

10日(金) 10:30(C)/13:50(B)/16:40(D)
11日(土) 10:30(A)/13:30(C)/16:50(B)
12日(日) 10:30(D)/13:30(A)/16:20(C)

監督：成瀬巳喜男
出演：【めし】 上原 謙、原 節子、島崎雪子 ほか(1951年/97分)
【おかあさん】 田中絹代、香川京子、岡田英次 ほか(1952年/98分)
【浮雲】 高峰秀子、森 雅之、岡田茉莉子 ほか(1955年/123分)
【乱れ雲】 加山雄三、司 葉子、森 光子 ほか(1967年/108分)



©Steel Mill (Marion Distribution) Limited 2012 All Rights Reserved.

監督：ポール・アンドリュウ・ウィリアムズ
出演：テレンス・スタンプ、ヴァネッサ・レッドグレイヴ ほか (2012年/イギリス/94分)



©2012 映画『すーちゃん まいちゃん さわ子さん』製作委員会

監督：御法川 修
出演：柴咲コウ、真木よう子、寺島しのぶ ほか (2012年/日本/106分)

※1月の「アンコール!!」、2月の「すーちゃん まいちゃん さわ子さん」の上映時間は、
決定次第ホームページ等でお知らせします。

THEATER BRIDGE

Information

【参加者募集】親子で舞台裏を体感できる
「劇場体験ツアー」

普段立ち入ることのできない舞台の上や奈落と呼ばれる劇場の地下に皆さん
をご案内したり、スタッフが明かりや音楽、効果音を操作する様子をのぞい
てみたり、出演者が出演までの準備をする楽屋を訪問したり、彩の国さいた
ま芸術劇場大ホールの舞台裏をくまなく冒険します！ この冬、劇場体験ツ
アーで新たな発見をしてみませんか？

Photo ©加藤英弘



日時：12月21日(土)、22日(日)、23日(月・祝)、25日(水)、26日(木)
各日 11:00/13:30/15:30 ※24日(火)は休演
※開場は各回ともにツアー開始の20分前 ※各回ともに1時間程度のツアーを予定
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
【対象】小学生とその保護者
※未就学児童のご参加はご遠慮ください(有料託児サービスあり)。
※親子で一緒にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子様の場合でも、できるだけ保護
者の方が一緒にご参加ください。 ※ツアーは昨年度と同じ内容です。
※車椅子をご利用のお客様は事前に劇場までご連絡ください。
【定員】各回30名(申込み多数の場合は抽選)
【料金】300円(子ども・大人共通/保険料込み) ※当日受付にてお支払いください。

【申込み方法】 申込用紙(財団ホームページ<http://www.saf.or.jp>からダウンロード)に必
要事項をご記入の上、FAXまたは郵送いただくか、彩の国さいたま芸術劇場窓口にてお申
込みください。参加証の発送とお電話での通知をもって抽選結果の発表にかえさせていた
だきます(12月上旬予定)。
【申込み締切】 11月30日(土)必着
【申込み先】 〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
彩の国さいたま芸術劇場 「劇場体験ツアー係」 FAX. 048-858-5515
【お問合せ先】 彩の国さいたま芸術劇場 TEL. 048-858-5500(休館日を除く10:00~19:00)

Information

【観覧募集】埼玉伝統芸能フェスティバル
宝登山の春

今回の埼玉伝統芸能フェスティバルでは、宝登山(長瀬町)の神楽と獅子舞
をご紹介します。より親しんでいただくためのワークショップも開催。ど
うぞお楽しみに！(入場無料)

【日時】2014年1月19日(日) 開演13:00
【会場】埼玉会館 大ホール

【演目】宝登山神社神楽団(長瀬町)『代参宮』『岩戸開き』
金崎・国神獅子舞団(皆野町)『鞠掛り』『御神楽』
【申込み方法】 郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、電話番号、観覧者氏名(4名まで)を明記の上、
ハガキ、FAX、E-mail、電話または埼玉県ホームページから電子申請/届出サービスにてお
申込みください。※定員に達し次第、申込み受付終了します。
【申込み・お問合せ先】 〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
埼玉県文化振興課[伝統芸能フェスティバル]係
TEL. 048-830-2879(土日・祝日、12/29~1/3を除く8:30~17:15)
FAX. 048-830-4752
E-mail. a2875-01@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/dentogeiino.html>
【主催】埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団
【協力】長瀬町教育委員会、皆野町教育委員会



電子申請・届出
サービスページへ

年末年始の休業について

Information

平素は当財団事業につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。
当財団の運営する3館の施設利用及びチケット販売について下記の通り
休業させていただきます。何卒ご了承くださいますようお願い申し上げます。

(各施設のスケジュール)	12月28日(土)	12月29日(日) ~1月3日(金)	1月4日(土)
彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 熊谷会館	通常営業	全館休館	通常営業

(チケット販売)	12月28日(土)	12月29日(日) ~1月3日(金)	1月4日(土)
彩の国さいたま芸術劇場内 チケットセンター (窓口販売・電話受付)	10:00~19:00	全館休館のため 休業いたします	10:00~19:00
埼玉会館	10:00~19:00		10:00~19:00
熊谷会館	10:00~17:00		10:00~17:00
インターネットチケット販売 [SAFオンラインチケット]	24時間ご利用になれます ※12/28(土) 16時以降に【配送】でご予約いただいたチケットは、1/4(土) の発送となります。		

※メンバーズ事務局(TEL. 048-858-5507)につきましても、12月29日(日)~1月3日(金)は休業とさ
せていただきますので、1月4日(土) 10時以降にお問い合わせくださいますようお願いいたします。

ACCESS MAP アクセスマップ



サポーター会員

(公財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるように、蜷川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(公財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行
(株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバシステム マシナリー(株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや
森平舞台機構(株) / 東芝エルティエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / アルピーノ村
国際照明(株) / 三國コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産発(株)
ビストロ やま / 埼玉信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) / (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株)
ボラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 / (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット
サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) / ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー
(株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション / 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) 国大セミナー / (株) NEWSエンターテインメント
(株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) / 医療法人 榎会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社
(株) セノン / 東京新聞ショッパー / (株) 松尾楽器商会 / (有) 中央舞台サービス / JA埼玉県中央会 / 日本大学芸術学部 / (株) 川口自動車交通 / (株) ホンダカーズ埼玉
ファミリーマートあすまや / (株) セブンドリーム・ドットコム / (有) 杉田電機 / 丸茂電機(株) / 太平ビルサービス(株) / さいたま支店 / (株) 片岡食品 / (株) 協栄
(株) ヨコハマタイヤジャパン / NTT東日本 埼玉支店 / チャコット(株) / (株) 平和自動車 / 光陽オリエントジャパン(株) / 埼玉建設(株)

H25.10.25 現在 / 一部未掲載

【お問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

彩の国 LOUNGE vol.8

タンツテアターとは何か

文◎貴 成人 (哲学・舞踊批評)



.....
▲
.....
クルト・ヨース、『緑のテーブル』
のダンサーと共に
©Hulton-Deutsch Collection/
CORBIS

ヴッパタル舞踊団のドイツ語名は「タンツテアター・ヴッパタル」だ。「タンツ」はダンスのことだが、問題は「テアター(シアター)」である。この語は「演劇」とも「劇場」ともとれる。そのため「タンツテアター」という語も多義的で、少なくとも次の四つの考え方が生まれた。

ピナ・バウシュの作品で、ダンサーたちは回想や小咄などセリフを語る。1980年代、こうした演劇的手法によって、ダンスは演劇との壁を越えたものとされた。

実際、第二次大戦前、戦争を批判した『緑のテーブル』など、明確な演劇的メッセージをもつダンス作品で知られるクルト・ヨースはバウシュの恩師である。

この二つの考え方において「テアター」は「演劇」を意味することになる。

だが、タンツテアターを演劇的ダンスと言い切るにも無理がある。バウシュは歌や映像、客いじり、衣装、独特の舞台装置など、セリフ以外の手段も動員した。作品の骨格となるコラージュやフラッシュバックは映画的手法なのである。

ここで「テアター」は「劇場」でもあったことを思い出す必要がある。1920-30年頃、たいていのダンスはスタジオ公演だったが、それに対して、ヨースは劇場公演を目指した。現在、ハンブルクやダルムシュタットなど、ドイツ諸都市の公立劇場舞踊団は「タンツテアター」とよばれるが、それは、劇場舞踊部門という意味だ。

だがバウシュによってこの語は新たな意味を帯びる。彼女があらゆる手段を総動員するのは、「ダンサーが自分を表現し、観客との間に何かをおこそうするとき手段は選べない」からだ。その結果、観客は、シーンごとに悲惨と滑稽、暴力と愛情など、ジェットコースターのような展開に振りまわされる。ダンサーの愛らしい仕草を見れば、こっそり真似したくもなる。作品とともに劇場空間全体が舞うのである。

バウシュにおいて「タンツテアター」は劇場空間と一体化した舞踊へと進化したのだった。

.....
▲
.....
ピナ・バウシュ ヴッ
パタル舞踊団「天地」
(2004年)
Photo ©池上直哉



SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2013.11-12

平成25年11月15日発行48号(隔月15日発行) 第48号(11月-12月)

発行人: 竹内文則 発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500